2．新入会員さんの自己紹介（2025年2月現在）

新入会員さんの自己紹介　（原稿は 2025 年 2 月時点）

伏見区　S・I さん

７５歳男性です。７年前に妻はガンで亡くなりました。亡くなって一年ほどは家の前に座って、線香をあげる時涙がでることもありましたがさすがにもうそんなことはありません。時々思い出しては寂しいと思うことはあります。まあ夫婦同時にあの世に逝くなんてことはありません。どちらか先に逝くのが普通です。事件、事故、自然災害に合う以外にはありません。仕方ないことです。

今はバイトと趣味とでちまちまと活淡と生きています。今のパターンで暮らしていって数年後がんが見つかって、余命幾年と言われて身辺整理をしてあの世に逝くことが理想ですが、まあそう都合よくいかないのが世の常だろうと思っています。

そんな時腑抜け NO 会の記事を見て、ひょっとして新しい出会いや縁ができるかも？と参加しました。余り期待していませんが興味を覚えるイベントあれば参加して新しい縁が生まれたら嬉しいです。

最後に川柳を一句

妻逝きて自由と寂しさやって来た。

左京区　Y・W さん

今日は 1 月 2 日、妻が胃癌で 4 ヶ月の闘病生活を経て、令和 6 年 1 月 2 日に旅立ちました。ちょうど丸 1 年が経過しました。その時は何が起きたのか、理解できずと呆然し、告別式の準備等慌ただしい日々が過ぎた後、悲しさと寂しさを感じるようになりました。

こんな状況でも、幸いにも私は役所で会計年度任用職員（以前は嘱託職員と言われていました。）として正規職員とほぼ同じ時間勤務し、寂しさを紛らわせていました。ただ昼の勤務を終え、帰宅すると彼女との思い出を巡らせ、悲しい気持ちが湧いてきました。その後、2 月頃に私の上司である女性職員から、週 1 回の体育振興会のバドミントン練習に参加しないかとの声掛け。テニスや卓球にはある程度経験はありましたが、バドミントンは全く素人でした。当時 68 歳の私は老体に鞭打つ覚悟で参加を決めました。また、4 月からはパソコン教室の参加、10 月からはスポーツジム通い等何事にも積極的に取り組む姿勢に自分でも驚いています。晩には、近所の行きつけのお好み焼き屋のお姉さんから様々な情報を教えていただいています。例えば「鰻の安くておいしい店」、「熟睡できるパジャマ」等、私には斬新な情報であり、それを得ようとすぐに行動に移しています。

このように内に籠らず、積極的に外に出て様々な方とコミュニケーションを図り、様々な情報を得て生活に活かすことが大事ではないかと思います。「腑抜け NO 会」は京都新聞の記事を拝読し、昨年 12 月から参加していますが、外向け行動の一環だと考えています。これからもどうぞよろしくお願いします。

南区　J・I さん

私は J・I と申します。南区の実家で一人で住み、2 月で 74 歳になります。腑抜け NO 会を知ったのは偶然、昨年 11 月 24 日の朝日新聞の記事を見たのがきっかけです。私も妻を 14 年前に亡くして、心のぽっかり穴が空いたように、寂しさはいまだに軽減されません。伴侶を亡くした人たちの会に興味がわき、早速インターネットで調べると、私の実家は富田さんの自宅とごく近所。私は富田さんと同い年であることもわか

りなんだか親近感が湧き、翌日富田さんに連絡取った次第です。12 月富田さんと飲みにも行き、この会に入会しました。

2010 年 10 月、妻が 5 年間の闘病生活を経て 55 歳で亡くなりました。私は大津の自宅にいるのが辛くて、すぐに京都の実家に引っ越しました。妻や二人の子どもと過ごした家は、楽しい思い出がいっぱい詰まっているので、まだそのままにして 14 年が過ぎました、でも今年 1 月から知り合いの支援も得て、やっと大津の自宅の片付けを始めたばかりで、なんだか落ち着きません。

現在、私はフィットネスクラブに週 5～6 回、また歩こう会、茶の湯のおけいこに毎月通っています、」自宅でも生きづらいお子さんをお持ちの家族会を毎月行っています。さらにこれらの会のメンバーと個別の付き合いもあり日々忙しくしていますが、腑抜け NO 会にもできるだけ参加するつもりですので、」よろしくお願いいたします。